

所属	教育委員会 文化振興課
担当	課長 三輪、係長 中井・浅野
連絡先	0584-81-4111（内線781、785）

大垣祭輻の再建等への支援について

1 趣旨

大垣祭輻は、昭和46（1971）年9輻が県重要有形民俗文化財に指定され、さらに平成19（2007）年には祭行事そのものが市重要無形民俗文化財に指定されるなど、保護の対象を拡充してきた。

このたび、中町と俵町からは焼失した布袋輻と浦島輻の再建計画を、本町から白木の相生輻の総漆塗りなどの復興計画が市に提出されたため、伝統文化の保護と継承の観点から支援を行うもの。

2 事業内容

・再建と復興する祭輻など

- ① 布袋輻 焼失した輻を古写真などの資料を参考に、平成23年度に再建する併せて町内のいなり公民館を改築し、輻蔵を建設する
- ② 浦島輻 焼失した輻を古写真などの資料を参考に、平成23年度に再建する併せて町内の秋葉神社境内の小屋を撤去し、輻蔵を新たに建設する
- ③ 相生輻 輻の漆塗りと金具の取り付けを平成23年度に実施し、完全なる復興を行う

・総事業費 3輻の総事業費 約177,000千円

・市補助額 総事業費の4分の3を限度とする予算の範囲内

3 実施期間

平成23年度中に完成し、平成24年春の巡行に間に合わせるが、布袋輻と浦島輻の2輻の仕上げ（漆塗りや金具等の取り付けなど）については数年度かけて実施の予定。

4 大垣祭輻の経緯

慶安元（1648）年にはじまったとされる大垣祭の輻は当初十力町10輻で曳きまわされ、延宝7（1679）年には神楽、大黒、恵比須輻の3輻が加わり、寛政10（1798）年には計13輻が城下を巡行したと確認できる。その後明治35（1891）年の濃尾震災や昭和20（1945）年の戦災などにより焼失を繰り返したが、再建などにより現在は11輻が市内を巡行しており、残るは布袋輻（中町）と浦島輻（俵町）の2輻となっていた。

布袋輻と浦島輻の2輻が再建されれば、焼失以来60余年ぶりの復興となり、併せて10力町の輻すべてが揃うため、大垣祭全体の伝承としてもその歴史的意義は大きい。